



全国の学生から集まった夢を紹介!



TOWNWORK Presents

キャンパスライフ・プラスワン Campus Life+1 通信

～教えて!みんなの夢～ Vol.21

学生の皆さんへの夢募集企画「Campus Life+1」にお寄せいただいた夢をご紹介します。どのような夢を持っているのか? その夢を持つに至った背景は? 今、どんなことに取り組んでいるのか? 全国の学生の皆さんの「夢」に迫ります!

Profile

天使大学3年生
藤原結可子さん(21歳)

栄養士になるべく日々勉強に励んでいる。幼い頃はメンチカツが嫌いだったが、今では好きな食べ物に。毎日、自分の弁当を作るがんばり屋さん。



栄養士となって小学校や中学校の給食を作り、「食」で子どもたちの未来を明るくしたい!

私は、食育に強い興味を持っており、大学では看護栄養学部に所属し、日々食品の栄養や調理について学んでいます。そんな私の夢は、栄養士になり小学校や中学校の給食を作る仕事に就き、子どもたちの成長を「食」でサポートすることです。私が、この夢を持つようになったのは、私自身が給食のおかげで成長でき、食べる喜びを知ることができたからです。私は、幼い頃は好き嫌いが多く、家庭でもよく食事を残していました。しかし、小学校に入学し、出される給食のおいさにびっくりしました。そこからというのは、給食が大好きになり好き嫌いがなくなっていったのです。そのおかげで、身体も丈夫になったと思います。そして、中学生になる頃には、将来は自分も給食を作りたいと思うようになっていました。中学の授業の一環である職場体験でも、自ら希望して地元の給食センターに行きました。そこで、どのように給食が作られているのかわかったり、栄養士さんが子どもたちのことを真剣に考えながら献立を考えているのを知り、子どもたちに給食を届けるという夢をより強く持つようになりました。

現在は、大学で栄養士になるべく勉強に励んでいます。それ以外でも自主的に行っていることがあります。それは旅行などに行った際に、地元のスーパーに行きその地域に売られている食材や調味料を購入し、研究することです。そうすることで、その地域の人々の食生活への理解が深まります。まだまだわずかしか行けていませんが、大学生の間に少しでも多くのご当地スーパーに行きたいと考えています。そして、この経験と大学で学んだことを活かし、将来は給食を通じて子どもたちに食べる喜びを伝えたいです。



▲大学2年生のとき、藤原さんが授業で実際に作った給食。この日のテーマは洋食。できるだけ多くの食材を使うように心がけたとか。



夢への足跡

2004年 11歳

当時、嫌だったメンチカツが給食に出たが、担任の先生にひとりでいからと言われ食べたら、驚くほどおいしく給食好きに

2008年 15歳

職場体験で自ら希望して給食センターに。将来の夢が固まる

2010年 17歳

修学旅行に行く際、地元のスーパーに行くこと面白いと担任の先生に教えてもらう

2014年 21歳

全国のスーパーに行きご当地の食生活を知りたいと Campus Life+1 に応募

主催: EN-TAC! enjoy talking campus

協賛: TOWNWORK

お問い合わせ先: 学生コミュニティサロン「エンタク」 TEL052-241-8100 (受付時間/平日9:00~18:00)

Campus Life+1の最新情報を掲載中!

エンタク

検索

<http://entac.jp/>

